
チームブレイブと作者の広場

クロス・ネクサス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チームブレイブと作者の広場

【Nコード】

N3116N

【作者名】

クロス・ネクスス

【あらすじ】

運命に導かれしポケモンたちの登場キャラ紹介 and 作者の本編じゃ使えないネタ放出

主体キャラ紹介

十四話までの主要キャラのプロフィールなどを紹介。

ということで、まずはフレイだ。

フレイ「おう。」

これ持って立つて。

フレイ「はいはい。」

フレイ

種族 バクフーン

性別 男

年齢 17

左目が青いオッドアイの主人公。

落ち着いた性格で、感情を大きく表情に出すことはあまり多くない。
マグマラシのころに虐められていた。

フレイが本気でキレた場合、無理やり止められるのはフレアだけ。

バトルの時は技と力を組み合わせて戦う。

火炎放射や火炎車の使用が多い。

甘党。

レクト「えっ！フレイさんって甘党なんですか？」カイル「そういや、フレイが甘党なの本編じゃ、まだでてないよな。」

フレイ「甘党でもいいだろ。」手元にはショートケーキ

次はカイルだ！

「うし、俺か。」

カイル

種族 ルカリオ

性別 男

年齢 17

背中に黄色の傷がある。

フレイとは子供のころから友達で、虐められていた頃もフレイとともにいることが多かった。

性格は単純。だが、稀に相手の表に出していない感情などを見抜くこともある。

波動を操る能力も波動を操る能力も強い。

が、バトルになるとその能力を使わないで戦っていることが多い。

バトルでは波動弾をメインとして使う。

フレイ「ってカイルについて書いてある量が俺より多い！」

気にしない気にしない。

フレイ「それで済むか？」

済ませろ

フレイ「こいつは・・・」

次はレクト、よろしく。

レクト「はい。」

レクト

種族 ピカチュウ

性別 男

年齢 11

尻尾が赤いピカチュウ。

産まれたところが色違いのポケモンが多く住んでいた街だったので
虐められることはなかった。

礼儀正しい性格なので、敬語や丁寧語で話す。

バトルでは高速移動で自分のスピードを最高まで高めて戦う。

若い女の子とはあまり接していなかったので、顔を見ると赤面して
気絶してしまう。

レクト「すっかりしてますよ・・・ね？」

フレイ「してるだろ。」

次はフレア、よろしく。

フレア「分かったわ。」

フレア

種族 バクフーン

性別 女

年齢 極秘

フレイの母親。

道場の責任者で、バトルは相当強い。だが、どこか抜けた感じがする言動が多い。

料理の腕は普通。

バトルの時は技より力をメインで戦う。

ちなみに、フレイとやったときも全力は出していない。

カイル「年齢極秘って書いてあるけどじつは・・・。」

フレイ「カイル！よせ！」

フレア「女の年は言うものじゃないわよ。カイル。」

カイル「すみませんでした。」

じゃあこの流れで次はレッカだ。

レッカ「ああ。」

レッカ

種族 バクフーン

性別 男

年齢 極秘

とある会社のCEO（最高経営責任者）。

仕事が多く、なかなか帰ってこれない。

落ち着いた性格でフレイの性格はここからきていると思われる。

バトルの腕も良く、フレアとは逆で技を主体とした戦いかたである。

バトルスタイルは絶対に譲れない。

レクト「フレイさんの両親どちらもバトル強いんですね。」

フレイ「まあ、ね。」

レッカ「フレイにフレアああっ会いたかったぞおおっ！」

フレイ「親父、こんなところで叫ぶな。」

じゃあ、次、アークよろしく。

アーク「分かりました。」

アーク

種族 ???

性別 ???

年齢 極秘

十四話時点で常にローブを纏っているポケモン。

基本的にフレイたちの旅路を見守っている。

十四話でフレイの身に起きたことも理解している。

性格は冷静沈着。

年齢が極秘なのはフレアたちと別の理由。

フレイ「・・・ストーカーか？」

アーク「違いますよ。ところで、性別まで隠すことは無いと思いますが。」

そう？じゃあ出しちゃお。

性別 男

さて、次行くよ。キリアよろしく。

キリア「分かった。」

キリア

種族 パルキア

性別 神にそれを聞くのは無駄だよ。byキリア

年齢 16

この世界の空間の神。

代替わりしてあまりたっていないので、知的好奇心がすごい。

性格は少し大人びている。

バトルもそれなりに強い。

少しズレた空間に特別な書庫を持っている。

全員「若っ!!」

キリア「僕の年齢なんてそんなに驚くことかい？それより作者、DSってなんだい？！僕の書庫にはそれに関する本は無いんだ。教えてくれないか？」 3

はいはい、後でね。

じつは性格にはモデルがいます。

フレイ「教えてくれよ。」

やだ。

さうて、キリアへのツツコミ、ダルガだ。

ダルガ「誰がツツコミだ！」

ダルガ

種族 デイアルガ

性別

年齢 28

この世界の時の神。

普段は落ち着いた性格だが、キリアのペースに巻き込まれるとツツコミのために熱くなることが多い。

バトルは相当強い。

苦労したり、貧乏くじを引いたりといったことが多い。

ダルガ「そういえば、この前モンスターンターについて聞かれたな・・・」

フレイ「色々大変そうだな。」

ダルガ「ああ、たまにライアまでのってくるから大変だぜ・・・。」

ということ、次はライアだ。

フレイ and ダルガ「ということじゃねえだろうがあああっ！」

ライア「何気にいきぴったりだな・・・。」

ライア

種族 ギラティナ

性別 俺に質問するな

年齢 俺に質問するな

この世界の反転世界の神。

冷静沈着で口数が少ないが最近、明るくなってきて、口数も増えてきている。

それでもたまに「俺に質問するな」などと言ってくる。

バトルは三体の中で一番強く、バトル中は口数が増える。

ひとまず、ここで紹介終了。

フレイ「つぎは？」

うーん、これまで出てきた固有名持ちの紹介か、博物館の展示の紹介のどっちかします。

フレイ「じゃあな。」

展示物紹介 その1！

はい、始めました。

カルツシティにあった展示物を紹介していきます。

フレイ「基本的に本編での登場順だつてよ。」

カイル「ポケモンでは普通できないこともあるが、ノリでいくぜ！」

レクト「じゃあいきまゝす。」

その一 アークル

展示物で一番最初にでたあのベルトで、仮面ライダークウガが変身に使用します。

フレイ「この中心にある石、この石の力で変身してるんだよな。」

その石は霊石、名前はアマダムという。

このベルトそのものが太古の人々 リントによって作られたものだからその石も相当古いよ。

カイル「これってさ、確か装着者と一体になるんだよな。」

フレイ「なんで有るの？」

気にしたらだめだよ。

それより、フレイ変身してみ。

フレイ「本気で言ってる!?!」

うん（笑）

フレイ「（笑）の時点で違ったる!くそ!こうなりやなるようになれ!変身!」

ここで作者の力発動!

フレイクウガ「あ・・・いった。」

カイル「すげえええ!」

レクト「いつの間にか人の等身になってますね。」

ついでにクウガについても少し説明を。

グロンギと呼ばれる戦闘種族と戦うために古代の人々 リントが
作ったベルト、アークルで変身する平成ライダー一号

（仮面ライダーブラックRXは何故か昭和に含まれるため）

フォーム数がとても多く、テレビにて戦闘シーンがあるフォーム数はWと並ぶ十一である。

オーズ放送前の時点で平成ライダーの最終フォームの中で最高のスペックをもつアルティメットフォームを持っている。

フレイ「でもアルティメットフォームは危険だろ。」

カイル「一步間違うと戦うための存在になるんだよな。」

レクト「究極の闇という呼び名もありますよね。」

オリジナルの五代雄介は制御に成功したけど、ディケイドの小野寺ユウスケはできてないんだよね。

フレイ「そろそろ次行こうぜ。」

じゃ行きまーす。

その二 オルタリング

平成ライダー二号の仮面ライダーアギトの変身ベルト。

フレイ「中央に埋め込まれている・・・賢者の石だっけ？そこから出るオルタフォー스로変身するんだよな。」

カイル「アギトって人類の進化系だって設定あったよな。」

レクト「で、敵は人を生み出した神『闇』が人から外れるものを消すために遣わしたロード怪人でしたっけ。」

よく知ってるじゃん。

ちなみに、『闇』がロード怪人に襲わせているのは超能力などを持った「人から離れていく者たち」にアギトであって、自分の作った人が嫌いになった訳ではない。はず。

フレイ「きちんと調べてから来い！」

カイル「じゃ今回は俺行きまーす！変ッ身！」

カイルアギト「よっしゃあ！」

カイルは龍騎に変身すると違和感なさそうだね。

フレイ「おっと、見た目で勘違いするやつもいるだろうから言っとくけど、アギトのモチーフは竜だ。クウガはクワガタだけど。」

アギトのフォーム数は六。最終フォームはシャイニングフォームだ。

カイル「次行つとく？」

行こっか。

その三 ファイズギア

はい、変身ベルトが売り上げ第二位のベルトです。

フレイ「そう言ったって他のカイザやデルタのベルトも合わせてだけどね。」

違う！平成ライダーシリーズで二位ってことだからあってる！

カイル「えーっと、携帯電話にデジカメにトーチライトって何？変

身道具なの？」

レクト「そうですよ。この携帯電話、ファイズフォントに変身コード555を入力して、エンターキーを押して・・・」

『555 standing by』

フレイ「ってレクト、何するつもりだ？」

レクト「僕がやります。変身！」

ファイズフォンをベルトのバックルに差し込み、倒す。

『complete』

カイル「アッ！したかったのに！」

ファイズレクト「早い者勝ちですよ。」

というか、ファイズの説明終わってないんだけど。

フレイ「だったらこのまますればいい。ファイズはギリシャ文字のファイ（火）をモチーフにデザインされたライダーだ。」

カイル「で・・・本来は人間の進化系である存在、オルフェノクの王を守るために作られた。ってアギトと設定かぶってないか？」

レクト「気にしたら負けですよ。オルフェノクは動植物の特徴を持った元人間で、死んだ者が低確率で変化する存在でしたね。」

そう。主人公の乾巧ことたつくんはファイズのベルトを使って人を守る。

カイル「オルフェノクの王じゃないのか？」

違う。確かに、ベルトは王を守るために作られたけど、そのベルトを作り主から盗んだ人物は人を守るために使われるのを望んだんだ。

フレイ「ま、巧もぜんぜんそんな思いは知らないで、目の前で人を襲っているオルフェノクと戦ってたんだけどな。」

基本的に、オルフェノクは人間が他のオルフェノクに襲われて、一度死んで灰になる。その後、オルフェノクになる素質がある者は、オルフェノクとして生き返るんだけど、素質がない場合、灰のままだったり、生き返ってもオルフェノクになれず、しばらくすると灰になったりするんだ。

カイル「ほうほう。」

そのオルフェノクも、一度死んだ存在だからか、自然に灰化が進んでいって、人の寿命より早く死んでしまうんだ。

カイル「そうなの！？」

うん。それで・・・

フレイ「ネタばれしている可能性高いからそこでストップ。」

え・・・もうチョイ

フレイ「おら、次行くぞ」

その四 カブトゼクター

フレイ「これは仮面ライダーカブトの変身ベルトだ。この赤い機械甲虫、カブトゼクターをベルトのバックルにスライドしてはめるところで変身する。」

カブトの敵は宇宙からやってきたワーム。見た目も本当に虫。人に擬態することができ、緑色で文字道理さなぎみたいな見た目のサナギ体、サナギ体が脱皮することで生まれる形態の二つがある。

カイル「あれ？名前は？」

あつたかもしれないけど・・・忘れた・・・

レクト「なにやってるんですか・・・」

フレイ「そして、ワームの一番の特徴とも言えるのは、脱皮した形態だと、クロックアップという高速移動が可能である点。その速度は速いという言葉で表せる範囲を越えている。」

無論、対抗するためにカブトを筆頭とするマスクドライバーシステムもクロックアップできる。ってところかな。

フレイ「とりあえず、変身してみるか。」

カイル「やらせろ！」

何やってんのさ・・・変身者はもう決まってるよ。

フレイ「ああ、あの人か・・・」

カイル「誰だよ？」

???「俺だ。」

よろしく。

???「変・・・身」

『henshin』

???「キャストオフ！」

『cast off change beetle』

なんとなく察していた人もいるかもしれないが、ソウシです。

フレイ「そういえば、ソウシさんはカブトの装着者、天道総司の性格をモデルにしたと言ってたな。」

変身してすぐはサナギをモチーフにしたパワーと防御力を優先した形態、マスクドフォームになる。

このときは、クロックアップが使えない。

だからクロックアップに対抗するために、マスクドフォームの重い装甲を排除して、今度こそカブトムシの成虫の姿をモチーフにした赤色の太陽の神、仮面ライダーカブトライダーフォームへと変身する。

Kソウシ「ほう、なかなか使いやすいな。」

カイル「せっかくだからさ、右手人差し指で天を指差すポーズとってください。」

レクト「天道さんの定番ポーズですか。」

そんなことやつてるときに悪いけど、そろそろ次行くから。

フレイ「はいはい。」

Kソウシ「では、失礼するぞ。」

『clock up』

レクト「あれ？」

フレイ「作者、持ち逃げしていったぞ。」

えっ!?

その五 電王ベルト

フレイ「仮面ライダー電王のベルトか・・・できれば遠慮したいんだが・・・」

カイル「逃げるのは許さないよ。」

レクト「いくらなんでも逃がしません。」

何嫌がつてるのさ。

フレイ「電王はフォームチェンジするときイメージが憑依する必要があるだろ。あんな奴に入られるのは嫌だ。」

いや、誰も君たちにやってもらうなんて一言も言っていないけど・・・

カイル「え？じゃあ誰にやってもらうのさ？」

チームメジンズに決まってるじゃん。

カイル「マジで！？」

フレイ（助かった・・・）

ということで、よろしく

「変身！」

カイル「って早っ！」

『sword form』

『rod form』

『axe form』

『gun form』

『wing form』

電王ソード「俺！参上！」

電王ロット「お前、僕に釣られてみる？」

電王アックス「俺の強さにお前が泣いた！」

電王ガン「お前倒すけどいいよね？答えは聞いてないけど！」

電王ウイング「光臨・・・満を辞して・・・」（何で私がこんなことをしないといけないんでしょう？）

フレイ「待て・・・基本4フォーム以外が混ざってるぞ。」

カイル「ウイングフォームに変身しているの誰！？」

レクト「あのエーフィじゃないですか？」

はい、説明いくよ。

電王が変身で使用するベルトは電王ベルト。バックルの左側に赤、青、黄色、紫のボタンが並べられていて、ボタンに応じてイメージが憑依してフォームチェンジする。

フレイ「ちなみに、イメージするのは未来からやってきた人類の精神体が、その時間の人間に憑依して、人間のイメージから姿を得た存在。自分たちの存在する時間につなぐことが基本的な目的。」

カイル「基本的って何だよ。」

フレイ「そう言うしかないんだよ。味方であるモモタロス、ウラタロス、キンタロス、リュウタロスはその目的で動いてないし、はぐれイマジンてのもいるんだぞ。」

レクト「本当ですね・・・そういえば悪の組織を作ると言っていたイマジンもいましたね。」

ちなみに、電王ベルトを作った人物は分かっていない。

味方しているイマジンは・・・有名だから名前だけでいいよね。答えは聞いてない！

フレイ「サボるな」

（無視）桃太郎の鬼のイメージから姿を得たモモタロス、浦島太郎の亀のイメージから姿を得たウラタロス、金太郎の熊のイメージから姿を得たキンタロス、いまいちイメージ元が分からんリュウタロスの四体。ちなみに、ウィングフォームになるイマジン、ジークは白鳥のイメージから。本編では一度ぐらいしか変身していない。

カイル「本当にリュウタロスのイメージの元って何だ？」

レクト「まだ著作権が残っている作品だって聞いたことがあります。」

「

電王は時を越えるデンライナーという列車でイマジンを追って、過去にも未来にも行けるライダー。

あと、人気がおかしいほど高く、本編終わって何年もたってるのにまだ映画が作られている・・・

そんなことしてる暇あったらディケイドをきちんと完結させる東映！正直言って二次創作エンディングの方がすっきりしてるぞ！

あと、某動画サイトにあつた真・仮面ライダーディケイド オリジナルの世界をめぐるを消すなよ！

フレイ「最後のほうただの愚痴だな。」

カイル「ああ、あれは面白かった。」

レクト「本編のディケイドもあれぐらいやってたらよかつたんですけどねえ。」

電王ソード「お前ら俺たちを放置するな！」

電王ロッド「まあ、僕はそれでもいいけど。おや？そこのお嬢さんお綺麗ですね。」

電王アックス「ぐお〜」 爆睡

電王ガン「へへ〜鳥さ〜ん」 お絵かき

電王ウィング「・・・いつまでこの姿でいればいいんですか？」

もーいいよ。おつかれ〜

フレイ「次行くぞ。」

その六 キバット

フレイ「おい、これ一応生命体・・・」

気にするな」

とりあえず今回はこれで最後だ。

キバットは仮面ライダーキバの変身に必要な生物だ。ちなみに名前にはキバットバット三世だ。

キバは本来、ファンガイアという種族の王が装着する鎧であり、本編でも『キバの鎧』という表現が多い。

キバは吸血鬼やこつもりをモチーフに組み込まれていて、天井に逆さにとまったりすることもできる。

また、基本形態は最終形態であるエンペラーフォームの力を抑えているフォームである。

フエッスルと呼ばれるアイテムを使うことでフォームチェンジをする。

とりあえず変身！

『ガブリ！』

カイル「あっ！」

キュピーン

変身完了。

カイル「ずるいずるい！」

はい、そこ、静かに。

フレイ「上の説明間違ってる気がするんだが。確かキバット族はキ

バに変身し、制御するのに必要な皇魔力の扱いに長けた種族だから、ファンガイアが製作したキバの鎧を管理する役目を与えられたっていうのだったと思うんだが。」

あ・・・

フレイ「ファンガイアについてだが、ステンドグラスのような外見の怪人態を持ち、人の生命エネルギー、ライフエナジーを吸収して生きている人間とはまったく異なる種族だ。」

カイル「違う種だって言っても子供産めるんだろ。結構近い存在なんじゃないのか？」

知らないよ・・・

フレイ「もう変身解けばいいんじゃないか？」

せっかく変身したんだから必殺キック、ダークネスムーンブレイクだけでも・・・！

カイル「ちょ、止め止め！」

行くぞ！ウエイク・ア『one two three : Rid
er Kick』つてにぎやああああ！？

レクト「作者さん！？」

カイル「おゝよく飛んでったな〜」

フレイ「少しは心配しろ。クロックアップからのライダーキックと

いうことは・・・」

K ソウシ「大丈夫か？」

フレイ「やっぱりソウシさんか。」

カイル「大丈夫か？つてのは？」

ソウシ「このベルトを返そうと思って来たら、なにやら危険そうなのがいたからな。こいつの力を使っただ。」

カイル「あれ、作者だったんだけどね・・・」

フレイ「何はともあれ、その1はここで終了。次回は未明に・・・」

展示物紹介 その1！（後書き）

フレイ「ようやくこっちが更新されたんだが・・・」

カイル「遅いよ。」

あははは・・・

フレイ「それは別にしても・・・明日で連載はじめてから一年になるだろ。」

うん。

フレイ「何もしないのか？」

人気投票でもしようかなとも思ったんだけど・・・話が進んでないからキャラも少なくて・・・

フレイ「結局そこに至るんだな。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3116n/>

チームブレイブと作者の広場

2011年10月6日21時27分発行